



## 学生の新しい発想に期待

中山信夫 70歳

娘婿のつながりで長岡技術科学大学の「打ち水の社会実験」をうちの町内で受け入れることになりました。消雪パイプで打ち水をするという発想は私にはありませんでした。学生には普通概念じゃない新しい発想で色んなことに取り組んで欲しいと思っています。私は商売人ですが、商売でも同じです。商売人は商売人の発想しかできません、素人の人の方がどんなもない商売の発想ができます。

### II 市民協働 story II

大学と地域が協力してまちづくりを進める事例は長岡にも多くあります。これからの大学は、地域にいかに関与できるかが大学の発展に関わってきますし、学生が社会に出て活躍するためには、学生時代から大学の中ではなく社会の中で勉強することが大事です。一方地域側にとってみれば、若い学生や専門性を持った大学が、地域に関わることは、まちづくりに新しい発想を持ち込んでくれます。このような両者の協働を広げていくことは、3つもの大学を持っている長岡市にとって大事なテーマになってきます。

## 長岡発祥の消雪パイプを活用した「打ち水」の社会実験

長岡技術科学大学 姫野修司研究室

長岡発祥で50年以上の歴史のある消雪パイプ。本来は冬期の融雪に用いる消雪パイプを一部夏に使うことで長岡に『涼』を届けたい。ヒートアイランド現象を食い止めた。その思いで2004年から消雪パイプを使った打ち水実験を行い始めた。最初は、当時の越路中学生5・6名の自由研究課題として開始した。地域の方々が管理している消雪パイプを使った実験に対して、越路地域、越路支所の方々には快く協力してもらい、確かに消雪パイプを活用すると気温は低下する事が分かった。冬期の融雪よりも大幅に使用量を減らせることも確認できた。

2008年には来迎寺で住民の方々と一緒に打ち水の効果をより本格的に確かめることができ、2011年には長岡駅前において広範囲で消雪パイプを使った打ち水実験を行った。地域の方々、行政の方々と協働することにより、地域の大学として長岡市をCOOL CITYにすることを目指し、実験を続けることができている。

